

# 幼児からの英語教育を進める考えは

杉村



委員長 副委員長  
常任委員 特別委員  
産業調査特別委員会  
総務・広報・地方創生  
産報調査特別委員会  
有明広域行政事務組合議員

## 杉村博明

## ALT以外の講師の導入を 考えている

町長

**Q** 英語は幼児からの教育が必要と常々私は思っており、町では小中学校の電子黒板が行き渡ったばかりで、まだまだ満足のいく環境とは言えず、先進的なICT教育向上が望まれるところであり、早急の課題として考えている。

**町長** は教育環境に関してハード面は整っていると言いましたが、これからはソフト面の充実が必要で、ハード面、ソフト面の両面が整って初めて南関町が教育環境日本一と言えるのではないかと、ついでに、幼児からの英語教育が重要で幼いときから身に付けることが英語を覚えるのに適していると考えますが、町長並びに教育長はどのように幼児からの英語教育を推進していくか尋ねる。

**町長** 近年のグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小学校における英語教育の拡充強化を推し進めている状況であり、2020年度からは、小学校5、6年生の外国語活動が教科化され、加えて外国語活動が3年生から導入予定になっている。子どもに英語教育を受けさせる必要性は年々高まっており、小学校の教育でいきなり未知の言葉に触れるのと、幼い頃から英語に親しみを持っているのでは、子どもの戸惑いも全く違い、英語の音楽や絵本などを通じて楽しむ機会を設けることや、ALT以外の講師を導入しての英語教育などの方法を今後は考えている。



**教育長** 現在、町内には幼児教育機関として3機関があり、子どもの丘保育園、認定こども園・ひまわり幼稚園、文化幼稚園の3施設で園としては英語は幼いうちに接することに、国際的な感覚も身につけ是非やりたいという相談もいただいております。

**Q** 南関町は他の市町村と姉妹提携等はしているか、今後の姉妹提携の考えはないかを尋ね、あわせて防災総合協力等の締結と総合文化交流等を行う考えはないか。

**町長** 南関町は市町村とも姉妹都市締結はしていないが、今後において産業の連携を含む文化交流、親善を目的とした地域間締結の1つとして位置付けられるものであるならば、ぜひ締結をしたい。

**Q** まず、副町長としての話が詳しく説明を求めたい。

**副町長** なるに至る経緯を詳しく説明を求めたい。

**Q** まず、副町長としての話が詳しく説明を求めたい。

**副町長** は、記載しきれないので議事録をご覧ください。また、質疑の途中において他の議員1名から動議が出され、2名の賛成者があり、疑惑を最後まで追及することができなかったのは非常に残念であったが、これからも一層厳しい目で行政運営を監視する。

やはり英語教育には力を入れる必要がある。

**他の市町村と姉妹提携等の考えは**

南関町は他の市町村と姉妹提携等はしていないが、今後において姉妹提携の考えはないかを尋ね、あわせて防災総合協力等の締結と総合文化交流等を行う考えはないか。

まず、総合文化交流としては、北原白秋にちなんだ自治体との姉妹締結が考えられる。自治体としては、神奈川県三浦市、小田原市、福岡県柳川市、熊本県天草市であり、今後白秋生家保存整備をきっかけに、関係自治体に情報発信を行い連携を密にして考えていく。

また、放置竹林の課題解決と地域資源、竹資源有効活用プロジェクトに取り組みされている京都府宮津市などと民間交流団体の友好な交流も含め姉妹締結できればと考えているところである。

職員時代は税務の職務に就かれていた経験があるが、当時徴収事務もされていたが滞納額は減少したか、増加したのか。

なぜ、私のような質問をするのかは、南関町を担う町長の次の人物として副町長にふさわしいか疑問を払拭するため、また町民の方々がこの副町長なら南関町を任せても大丈夫と納得されるような説明を求めたいのである。



総務産業常任委員  
有明広域行政事務組合議員

**山口純子**

# 佐藤町政一期目中間での 評価と今後について

山口

## 「あふれる緑の中に暮らしやすさを備えた ずっと住み続けたい町」の実現へ 町長

**Q** 上田町政より住んでよかったプロジェクトを引き継がれ佐藤町政となつての中間の総括や定住の目的に実施されている事業などは順調に実施されていたか、又その結果の成果と課題は？

**A** 町長 上田前町長在任中の平成二十三年四月から住んでよかったプロジェクト推進事業を本格的に展開し、今年度五年目を迎えた。五年間の南関町総合振興計画の基本計画後期六章ゆとりある住環境のまちづくりの中の主要施策、定住促進の中に位置づけてあり「あふれる緑の中に暮らしやすさを備えたずっと住み続けたい町の実現に向けて取り組んできており、これを引き続き

実施していく。十八項目の事業の中の産み、育て、住む環境の整備充実という観点ではどの事業も定住等目的に実施した事業であり就学前児童数が、平成二十三年度より五年続けて伸びてきており、関所つ子誕生祝金、保育料助成金、チャイルドシート購入費助成金、子ども医療費助成金等、産み育てる環境が整っている効果と思う。他に、定住住宅取得補助やそれに伴う新築住宅固定資産補助金等は財産の取得で本町在住者のもとより町外者本町にも転入し、家を取



県庁で調印式に出席の町長

得することで定住して頂くための効果的な事業と思う又、高齢者の支援等についてもタクシー料金助成事業や、買い物宅配サービス事業、高齢者に安心してしんでいただけける策を講じている。本年十月からは予約型乗合タクシー事業も試験運行

を開始、公共交通の空白地域の手厚い支援となっている。

**Q** 今後廃止するもの、また新たに新設するものについての検討は？

**A** 町長 事業の検証については、役場各課より一名を委員として委嘱し、副町長を会長、まちづくり課長を副会長として八名の委員でまちづくり推進プロジェクト会議を組織し町づくり課が事務局となり、会議を開催している。会議は五回

を重ね事業シートによりそれぞれの事業について実績に基づく評価と今後の方向性について関係課より報告し協議を重ねている。廃止の事業の中止については見直しをかけるもの、新たに組み込む事業と選別をかけている段階で、まだ明確には言えないところである。

**Q** 人口の自然減少は国により統計的にだされているが、このことを踏まえて人口増の政策は必要だが現実問題としてひとり暮らしや高齢者問題の政策、また小学校統合等も視野に入

る必要があると思うがどう思うか？

**A** 町長 できる限り南関町の地域の小学校は残したいと考えている。就学前児童が増加する現象が見えており、今後も継続することを期待するので何があっても継続させたいとの考えを

持っている。  
**Q** 十一月二十六日総務省での三百人余りの研究会で南関町がプレゼンしたがその点についてたずねる。

**A** 町長 総務省講堂において第五回自治体主催の地域エネルギーシステム整備研究会について高市総務大臣、環境省、資源エネルギー庁、林野庁、金融庁の出席で南関町が総務省からの交付金で取り組んでいるバンブーフロンティア事業と、分散型エネルギーインフラプロジェクトマスタープラン策定事業について紹介を行った。

**まとめ** 町では定住促進少子化、高齢化、ひとり暮らしなどの対策を前向きにやられ、住民の命と財産を守るため医療防

災も課題が山積みになされている。消滅の町とされている町も活性化、安心して暮らせる町として住民が夢と希望を持てる南関町を実現してもらいたい。



# 南関高校跡地を どのように活用するか 鶴地



長 委員 常任 委員 常任 委員 常任 委員  
文 教 厚 生 常 任 委 員 長  
議 会 運 営 委 員

## 鶴地 仁

## 庁舎として活用、コンパクト シティ構想も視野にある 町長

跡地や施設の所有権については、県内での統合事例では、旧校の校舎を教育・研究施設として無償使用許可や、貸与の事例、現在も県が所有管理している例も

ある。跡地の総面積は、3万5,208平方メートル、この内1万557平方メートルが寄附、残りが買収により県が取得している。校舎等の耐震化については、武道場のみ補強が必要だが、その他教室、体育館、管理棟等は補強不要または完了している。今後の計画次第ではあるが、なるべく有効活用したい。

**Q** 高校跡地の活用について、検討委員会の設置、跡地や施設の所有権譲渡、貸与等過去の統合での事例、校舎や体育館等の施設の再利用、進入道整備等どのように考えているか。

**A** 町長 南関町庁舎等検討委員会を組織して、今月まで6回の検討会が開催された。来年1月の第7回を最終として提言を受け、検討していく。高校跡を庁舎として活用し、他の敷地については小さな拠点事業を含めたコンパクトシティ構想を視野に入れていく。

**Q** 跡地活用について、在校生に意見を聞く、検討委員会に入ってもらおうのも彼らの将来のためになるのではないか。

**A** 町長 庁舎等検討委員会からの提言を受けて本格的な検討に入る。在校生の考え方も重要なので、組織の中に高校生を入れることが可能であれば、入れていきたい。

**Q** 高校統合は県から一方校舎をそのまま残すのはどうか。中を改装、外観は残し、最後のクラスの教室もそのまま残して会議室に使うのも良いのではないか。

**A** 町長 県所有を無償というのは難しいが、公共的な用途として使用される場合には貸与の形になっているのが通常のようなものである。しかし、南関高校の歴史、寄附で学校が出来たという経緯を踏まえ、無償での交渉に入りたいと考えている。

**Q** 高校跡地の活用について、無償譲渡になるような構想をしっかりと考え、町民が納得する施設建設

**Q** 南関高校は敷地面積で3割が寄附でなされている。高校として使うから寄附をされたのであり、高校がなくなったら全体を含めて無償譲渡の要望の理由になると思うが。

**まとめ** 高校跡地の活用については、無償譲渡になるような構想をしっかりと考え、町民が納得する施設建設



**Q** 大津山公園の管理者選定の整備条件はどのようになっているか。今、白秋生家の保存・管理の構想が出ていますが、公園一帯の整備と連携した観光ルートの発想はあるか。

**A** 町長 いきいき村から大津山阿蘇神社までも含め、白秋の生家の修復も整備、古小岱の里等もあるので南関町の観光ルートとして検討していきたい。

**Q** トイレの清掃や照明、鳥獣供養塔までの道端の状況、町道脇のツツジがどういった状況か確認してもらいたい。剪定、草刈、清掃の回数を低い条件で安くすると、しっかりと整備する条件で高くなるのでは、不平等になる。仕様書を統一しなければ整備もおろそかになる。作業確認はどうしているか。

**A** 経済課長 作業前、途中の写真、作業完了の写真は提出してもらっている。

**Q** 写真だけでは確認にならない、大津山は町外からの登山者も多い、たまには町から直接行って確認、指摘すべきだ。私は昨日も見に行っただ。皆さん方、今日見に行つて欲しい。私が言うよりも見てもらったほうが一番である。